

平成25年度若手研究者国際短期派遣事業研究滞在記

典型元素機能化学領域

修士2年 仲嶋 翔

化研若手海外派遣事業の支援を得て、2013年9月10日から2013年10月27日の日程で、英国のBristol大学に研究滞在させて頂きました。このような機会を与えて頂いた関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

滞在していたブリストルは数多の史跡を擁する美しい丘陵の街です。天気は安定せず、どんよりしている反面、街は人々の活気に満ちあふれています。私は所属研究室と同様に鉄触媒クロスカップリング反応に取り組んでいるBedford研究室に在籍し、グローブボックス中でのstopped-flow紫外可視分光装置を用いて同反応の素反応過程における反応速度検討に携わらせて頂きました。本装置の使用は、Bedford研究室でも経験が浅かったため、現地の学生と共に手探りの状態から始めました。滞在中に研究成果を出すには至りませんでした。普段使用しない装置や化合物を扱うことができ貴重な経験となりました。ワーキングタイムは9時頃から18時頃までと、私の知る日本の有機系研究室に比べると短いものでしたが、朝一から皆集中して実験に取り組んでおり仕事の質ははるかに濃いように感じられました。日中は、学生-教授間、また、学生間での議論が頻繁に交わされていました。特に印象的であったのが、他研究室の学生も自由に研究室を行き来し、議論、談笑していた点です。日々の研究への集中力と、他研究室とのコミュニケーションは是非見習いたく思います。研究終わりには研究室メンバーや他の研究室の友人たちとPubに行き、お酒を嗜みました。英国の人々は本当にお酒が好きなので、食べ物をほとんど食べずひたすらお酒を飲む文化には驚かされました。週末には電車に揺られ、近場ではBath, Cardiff, 少し足を運んでLondon, Liverpoolなどを訪れ、英国の自然や文化を肌で感じる事ができました。



(左) : stopped-flow 実験について教えて下さったポスドクの Peter との一枚

(右) : グローブボックス中の stopped-flow 紫外可視分光装置